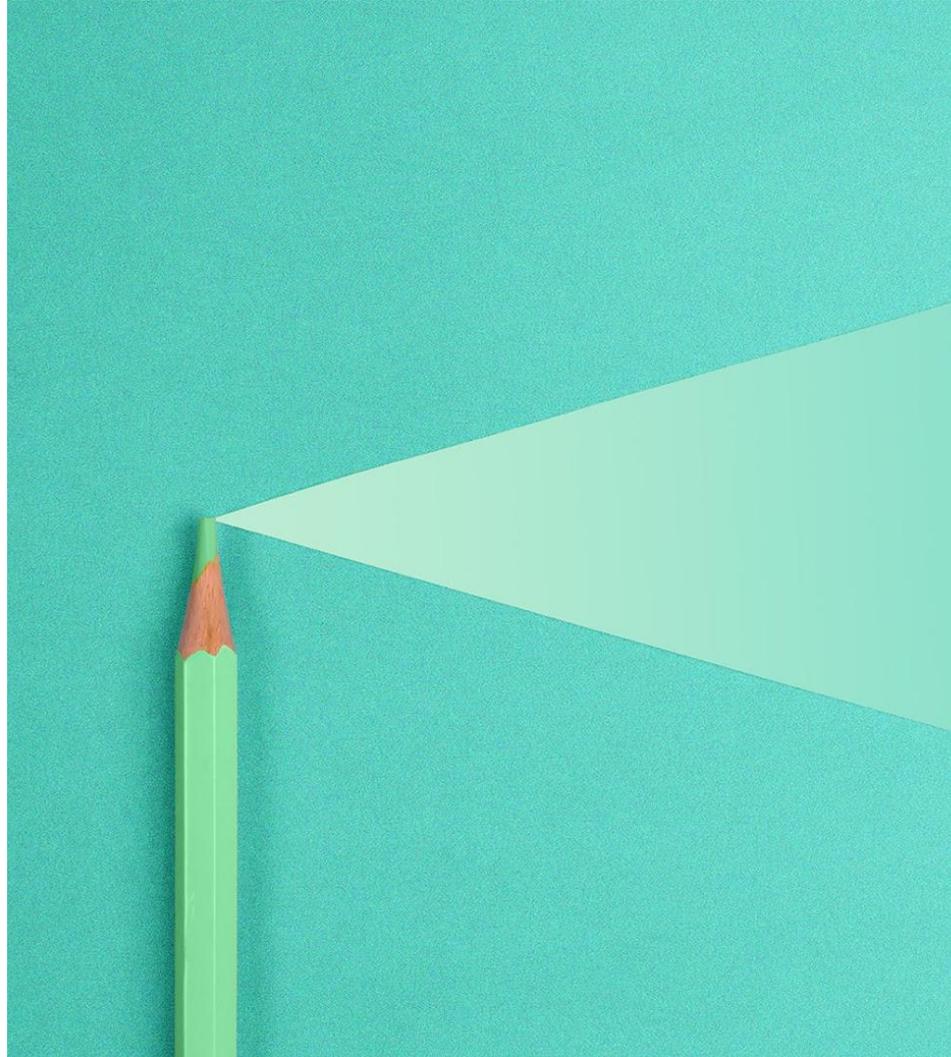


チームみらい 政策マニフェスト テーマ別解説版 福祉編



本資料はチームみらいのマニフェストを政策テーマごとにまとめたものです。概要をまとめた「要約版」、マニフェスト全体をご覧いただける「詳細版」もごございますので、ぜひ合わせてご覧ください。

要約版



<https://speakerdeck.com/teammirai/timimiraimanihuesuto-yao-yue-ban-v0-dot-2>

20ページほどのスライドでマニフェストの概要
をご覧いただけるものです

【要約版】



詳細版



<https://policy.team-mir.ai/>

AIに質問をしたり、AIとおしゃべりをしながら
内容提案をしたりすることが可能です

【詳細版】



マニフェスト テーマ別解説版

チームみらいの政策の柱

1. 新産業育成による**所得倍増**
2. 日本を世界一の「**子育て先進国**」へ
3. **いびつな税・社会保障制度を未来志向で再構築**
4. 立法の「**見える化**」
5. 「**政治とカネ**」問題に**終止符を打つ**
6. **誰も取りこぼさない社会福祉へ**

チームみらいのマニフェストを構成する政策テーマ

政治と行政

デジタル民主主義

くらしと行政

経済財政

生活と社会保障

教育

子育て

医療

本資料

福祉

技術と産業

科学技術

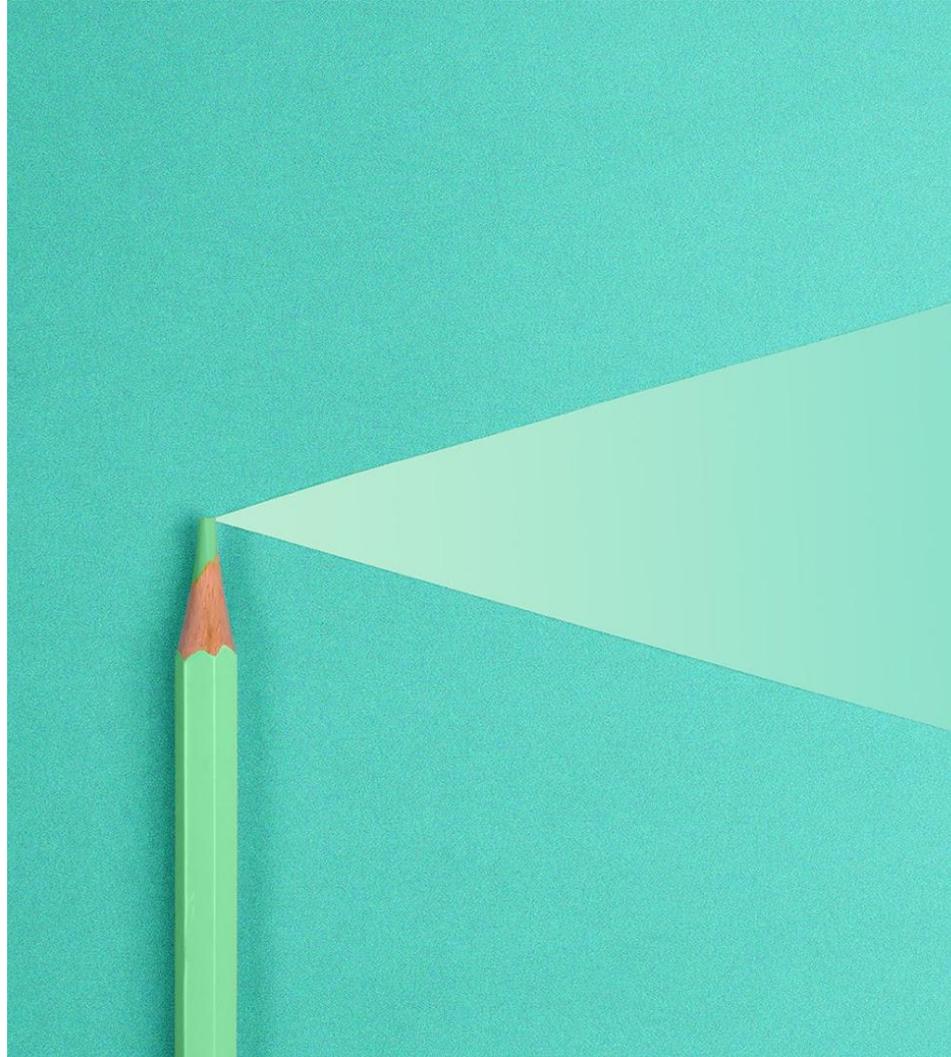
産業

エネルギー

チーム
みらい

政策テーマ

福祉



チームみらいは、誰も取り残さない社会福祉を実現します

現状課題

- 既存の福祉の制度はたどり着くのが容易ではなく、申請にも手間がかかります
- 障害児(者)や家族を支援する制度にも、所得制限や、「18歳の壁」「親なき後問題」など多くの壁が存在します
- 福祉・介護従事者は足りておらず、業務負担の大きさや賃金の低さも課題です

チームみらいは

- テクノロジーを活用しながら、必要な支援の情報を届け、手続きが簡単にできるようにします
- 経済的・制度的な壁を取りのぞき、障害児(者)と家族が安心して暮らせる社会を追求します
- 介護テクノロジーへの投資や報酬体系の見直しで、福祉・介護従事者の生活の質を向上させます

福祉の支援が必要な人が適切な情報・制度にアクセスし、 支援を受けることは簡単ではない

必要な支援の情報を見つけるのは簡単
ではなく...

子どもの健診で発達障害の疑いがあると
言われたが、その後どこに相談すれば
よいか分らず不安だった

子どもが障害の診断を受けた時は特別児
童扶養手当をもらえることを知らず、1
年後に療育手帳を取得したときにようや
くその存在を知った

...申請の手続きも複雑

親の介護の最中に介護認定の取得を
勧められた。けれど、不在中の世話
を頼める人がおらず、役所に手続き
に行くことができなかった

障害年金を申請するために自治体や病院
を何度も回って多くの書類を用意した
にも関わらず、結局、支給の資格を
得られなかった

既存の支援制度には所得制限を始めとした様々な壁が存在

現状の支援の制度には所得制限があり...

...支給の対象外となって負担をかかえる家庭が多く存在

特別児童扶養手当¹の例

	支給月額	所得制限 (扶養2人の場合)
1級（重度）	56,800円	約536万円以下 ² (=収入約728万円以下)
2級（中度）	37,830円	

子どもがいる世帯の平均年収
(約813万円)でも所得制限の対象に

所得制限を少しでも超えると支給
が0円になってしまう制度設計

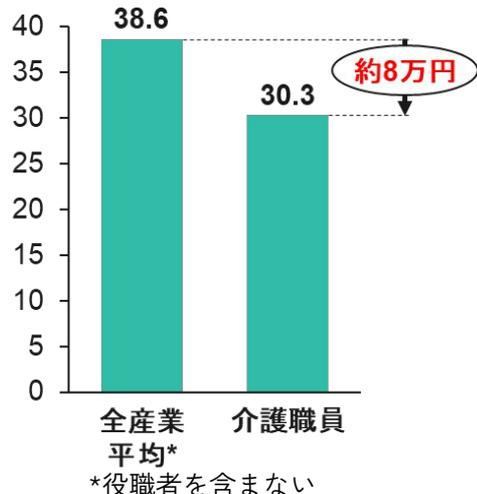
所得制限によって手当がもらえない、障害福祉サービスの自己負担がかかる結果、「所得の逆転」現象も起きている

1. 20歳未満で精神または身体に障害を有する児童を家庭で監護・養育している父母等に支給; 2. 非課税所得以外の所得等から医療費控除や障害者控除、寡婦控除等の額を差し引いた所得額、「受給資格者本人」の制限額を記載。受給資格者の配偶者及び扶養義務者の場合は、所得額約675万円（収入：約880万円）
出典：厚生労働省「特別児童扶養手当について」；厚生労働省「令和5年 国民生活基礎調査の概況」

福祉・介護従事者の人手不足が深刻で、根底には業務負担の大きさや賃金の低さが課題としてある

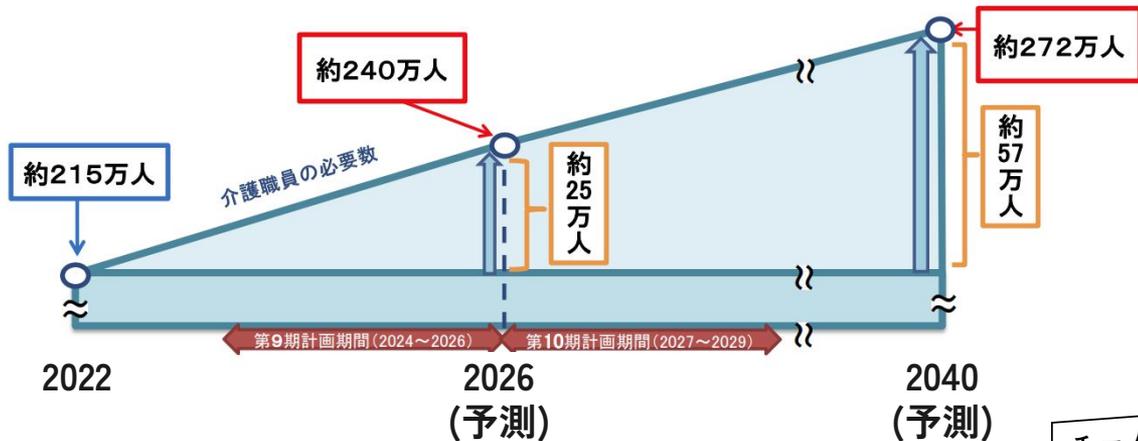
業界の賃金は平均よりも低く、業務の負担も大きい

(賞与込み給与、万円)



介護職員の必要数の予測に基づくと、2040年には57万人が不足するおそれ

介護職員の必要数の予測



出典：厚生労働省「社保審 介護給付費分科会 第245回 参考資料：介護職員の処遇改善について」；
厚生労働省「第1回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会 資料5 介護人材確保の現場について」

チームみらいは、誰も取り残さない社会福祉を実現します

テクノロジーの
活用で、誰も
取り残さない
福祉アクセスを

- 情報や支援へのアクセスの改善
- 障害者雇用の拡充
- 福祉従事者の処遇の改善

障害児(者)と
その家族がもっと
安心して暮らせる
社会へ

- 多様な声の政策への反映
- 福祉の「壁」の撤廃
- 障害児と家族の生活を
守る支援

介護テクノロジー
の活用で、
介護する人も
される人も
より良い生活を

- 介護テクノロジーの導入
への投資と業務効率化
- 介護従事者の処遇の改善

テクノロジーの力を活用し、誰もが必要な情報や支援にアクセスできる社会を実現します

1 情報や支援への アクセスの改善

テクノロジーの活用で：

- 支援が必要な人に適切な情報が届く仕組みを
- 障害年金等の申請・認定プロセスを効率化

福祉制度の説明・申請における表現工夫を制度化

2 障害者雇用の拡充

障害者も企業も無理なく続けられる雇用支援を

- 例：業務の理解を助ける支援ツールの開発、受け入れ企業の担当者向けのAIコーチ機能等

3 福祉・介護事業者の 処遇の改善

物価上昇に応じた基本報酬の改定やさらなる賃上げ方策の検討

福祉や介護従事者の業務の負担を軽減

- 現場で必要とされる・使いやすいテクノロジー活用を推進

福祉：政策詳細_誰も取り残さない福祉アクセスの実現①

テクノロジーにより、支援が必要な人が適切な福祉サービスを知りやすく、アクセスしやすくします

福祉申請手続きの オンライン化

書面・対面の手続きを義務とする規定の更なる見直しを実施

生活保護や特別児童扶養手当などに関する手続きもスマホから可能に



支援が必要な人への プッシュ型支援

登録情報に基づき対象となる支援制度をアプリやメールで自動通知

福祉サービスを「探す・理解する・申請する」手間を不要に



障害福祉相談ポータル の設置

障害者や家族のあらゆる疑問や悩みをAIに相談可能なポータルを設置

相談内容を踏まえて必要に応じて行政や専門家へ連携し、迅速・確実にサポート



チーム
みらい

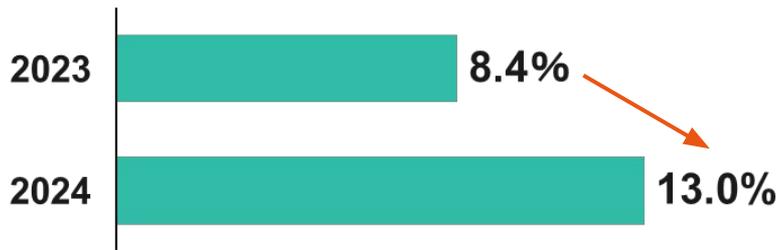
福祉：政策詳細_誰も取り残さない福祉アクセスの実現②

テクノロジーの活用により、障害年金の支給判定をより透明性と公平性のあるものにします

現状の課題

障害年金の認定基準には曖昧さが残り、最近では不支給率の増加が問題に

障害年金の不支給率（全体）



チームみらいの考える対策

障害年金の支給判定プロセスをデジタル・AIで効率化し、透明性と公平性のある判定へ

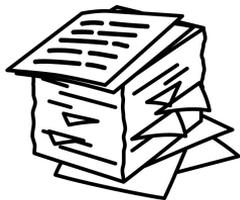
- 審査の標準化を推進
- 認定結果や不支給事案の分析を継続的に行い、制度運用の課題や改善点を可視化
 - 「初診日」要件の見直し
 - 生活実態に即した判定基準に改定、等

切れ目のない福祉支援を提供する、デジタル福祉パスポートを実現します

現状の課題

福祉サービスを受けるために複数の申請や証明書の提出が求められ、利用者や家族にとって大きな負担

役所や医療機関、療育施設など支援機関の間での情報連携も紙が主体で時間がかかる



デジタル福祉パスポートでできること

障害者手帳とマイナンバーを連携することで、スマホのアプリで福祉サービスの申請から利用をまとめて管理

- サービスの支給申請をオンラインで可能に
- 各福祉施設での支援情報や福祉サービスの利用スケジュールもアプリで管理
- 受給者証の更新手続きもプッシュ通知に基づいてアプリ内で完結



障害児(者)とその家族をはじめ、すべての子どもが安心して暮らせる社会を実現します

1 多様な声の 政策の反映

福祉を必要とする当事者や支援者の多様な声を、AIの力を活用して集約し、政策や制度の改善に反映

2 福祉の「壁」 の撤廃

所得制限の「壁」や障害児の「18歳の壁」、「親亡き後問題」など、様々な壁への対応策を検討・推進

3 障害児(者)と 家族の生活を 守る支援

保護者の負担を軽減し、子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に引き出す支援体制を、テクノロジーの力を最大限活用して構築

4 セーフティ ネットの強化

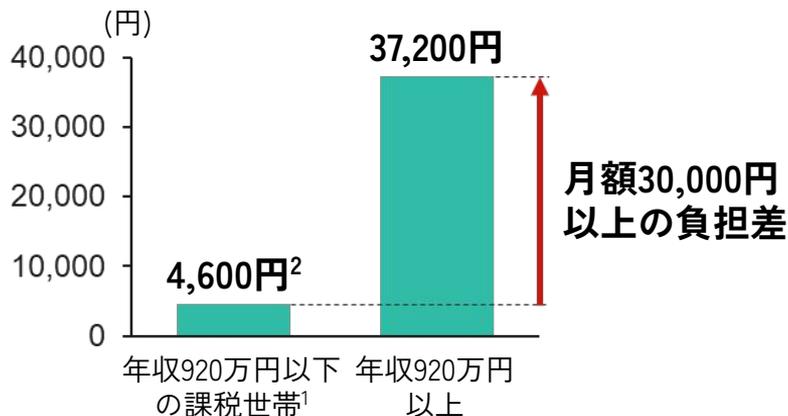
ヤングケアラーや貧困、児童虐待など、困難な状況にある子どものセーフティネットを強化

障害児福祉に関する所得制限の撤廃・経済負担の軽減を進めます

現状の課題

障害児福祉の制度があっても所得制限により家庭の負担の差が大きい

放課後等デイサービスの利用負担上限月額額の例



チームみらいの考える対策

障害児支援に設けられた所得制限を撤廃

- 特別児童扶養手当、障害児福祉手当 等
- 放課後等デイサービスの利用料 等



1. 「一般1」区分（市町村民税課税世帯（所得割28万円未満）を指し、該当する収入の目安が920万円；2. 通所施設、ホームヘルプ利用の場合の額
出典：厚生労働省「障害者福祉：障害児の利用者負担」

障害児の「18歳の壁」対策により保護者の就労継続を支援します

「18歳の壁」問題

障害のある子が18歳で特別支援学校を卒業すると、夕方を過ごす居場所がなくなり、帰宅時間が早くなる

子どもの卒業をきっかけに、保護者の就労の継続が困難に

チームみらいの考える対策

障害のある方が夕方以降も安心して過ごせる居場所を新たに検討

- 生活介護や就労継続支援などのサービス提供時間を延長するための運営費の助成
- 保護者の送迎負担を減らす移動支援の充実

発達障害のある子どもの初診予約が取りにくい課題を解決します

現状の課題

発達障害の可能性を指摘された子どもが児童精神科を受診したくても初診予約がとれず、受診に何ヶ月もかかることも

発達障害の専門家が不足していることが一因

チームみらいの考える対策

早期に診察・サポートが受けられる仕組みの構築

- AIを活用し、重症度・緊急度に応じて早期受診が必要な人が優先的に専門医を受診できる仕組みを構築
- 専門医の受診に時間がかかる場合には、オンラインアセスメント結果を踏まえたサポートを提供

発達障害に対応可能な専門家の拡充・制度改革

- 医療者の教育・啓発や制度設計により、専門医と連携しながら地域の身近な医師でも対応を可能に
- 児童精神科の報酬体系の見直し

障害者の「親なき後」を見据えた支援を推進します

障害者が安心して暮らせる環境の整備

既存の支援制度を強化しながら、障害者が安心して暮らせる環境を整備

- 成年後見人制度の利用における課題解決・活用促進
- ピアサポートの活用支援 等



入居可能な施設の拡充

グループホームや障害者支援施設の拡充

- 必要な財源と人材確保の策を含めて検討を推進



きょうだい児に対する支援

家族だけが支援を担うことを前提としない仕組みに転換

きょうだい児の心理的なケアや学びの場の提供、将来設計の支援を推進



育児のセーフティネットを強化し、誰もが安心して暮らせる社会を作っていきます

障害児と家族の生活を守る支援

福祉の情報や手続きをまとめて管理できるプラットフォーム

AIで個々に最適化された学びとケア

遠隔医療・療育の推進

レスパイトケア・専門的保育の拡充

すべての子どもが安心して暮らすためのセーフティネットの強化

ヤングケアラーの早期発見

児童虐待の検知AIの再構築

子どもの貧困への対策

ひとり親への養育費不払い問題への対応

介護の領域においてもテクノロジーを活用しながら、 介護する人・される人の生活の質の向上を目指します

介護従事者の 処遇の 改善

物価上昇に応じた基本報酬の改定、
加算の拡充を推進

テクノロジー活用による生産性向上分
を処遇の改善に繋げる仕組みを構築

介護従事者の 業務負担 の軽減

現場に必要とされるテクノロジーを丁寧
に見極めた上、介護テクノロジーの導入
や介護記録のデジタル化を推進

- 例：見守りシステム、介護ロボット
- テクノロジー導入支援のための研修プログラムを整備

介護テクノロジーの
活用により、**介護される
人の生活の質の向上**にも
貢献します

まずはテクノロジーの活用で福祉の情報や支援へのアクセスを改善し、
制度・仕組みの面からも、福祉がより多くの人に届くようにしていきます

ステップ1

デジタル時代の
当たり前をやりきる

テクノロ
ジー活用で
福祉アクセ
スを改善

情報・支援へのアクセス

福祉・介護従事者の処遇

ステップ2

変化に対応できる、
しなやかな仕組みづくり

障害者雇用の充実

ステップ3

長期の成長に
大胆に投資する

障害児(者)と
家族
の支援

福祉の「壁」の撤廃

障害児(者)と家族の支援

セーフティネットの強化

介護テクノ
ロジーの
活用

介護テックへの大胆な投資

チー ム
み ら い

について

テクノロジーで
政治をかえる。
あなたと一緒に
未来をつくる。

チーム
みらい

テクノロジーは、難しい技術のことじゃない。

できなかったことを、できるようにする方法のことだ。

私たちはテクノロジーで、政治の透明化・効率化を実現する。

それは今すぐできる。そしてあなたの生活を着実に改善できる。

政治は、限られた人のものじゃない。

本来、私たち一人ひとりの手の中にあるべきものだ。

私たちはテクノロジーで、政治とあなたの距離を近くする。

もっと気軽に参加できる、もっと参加したいものへ変えていく。

未来は、理想を語るだけじゃ変えられない。

今をひとつずつ改善することでしか、良くできない。

私たちは自分たちの手で、今すぐできることを今すぐ実行する。

あなたと一緒に一歩一歩、未来は明るい信じられる国へ。

新党・チームみらい

テクノロジーで政治と未来を良くすることを目指す新党です

**私たちは、
手を動かす。**

現場視点で建設的なプランを考え、
自らの手で素早く実行します。

**私たちは、
分断を煽らない。**

感情ではなく、データと事実で語ります。
批判より提案を。分断より解決を。

**私たちは、
オープンにする。**

意思決定も、お金の流れも、プロセスも。
透明に、誠実に、信頼とともに歩みます。

**私たちは、
何事も決めつけない。**

正解はひとつじゃない。多様な声に耳を傾け、
より良い答えがあれば、柔軟に改善します。

**私たちは、
誰かをおとしめない。**

他党も政治家も、日本の未来をつくる仲間。
協力できる箇所を探し、一緒に進みます。

チームみらいは、パイの再分配だけでなく、成長を目指します

マニフェストでは、3つのステップで成長を目指す政策を掲げています

ステップ1：
デジタル時代の当たり前をやり切る

デジタルにおける「当たり前」を実行するだけで成果が出る「のびしろ」を発見し、すばやく実行します。

ステップ2：
変化に対応できる、しなやかな仕組みづくり

硬直的な現在の税制、教育、医療制度を、変化に迅速に対応できるしなやかな制度に再構築します。

ステップ3：
長期の成長に、大胆に投資する

前ステップで生み出した余剰資金を子育てや新産業創出、科学技術、文化振興に持続的な投資を実行します。



党首・安野たかひろ

1990年生まれの34歳

AIエンジニア・起業家・SF作家

2024年、東京都知事選に出馬。15万4638票を獲得。
東京都の外郭団体「GovTech東京」アドバイザーとして、自治体などのデジタル化を支援。デジタル庁デジタル法制ワーキンググループ構成員。

東京都生まれ。東京大学工学部システム創成学科卒。在学中、AI研究の第一人者、松尾豊氏の研究室に所属し、機械学習を学ぶ。ボストン・コンサルティング・グループを経て、AIスタートアップ2社を起業。

チームみらいとつながろう



[@anno_teammirai](#)



[@安野貴博](#)



[@team_mirai_jp](#)

ありがとうございました